



安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8

担当

TEL(03)3270-2701

FAX(03)3270-2720

緊急連絡 同上

改訂日 2018/11/26

SDS整理番号 19290250

製品等のコード : 1929-0250、1929-0260、1929-1280

製品等の名称 : 塩化ナトリウム

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
塩素・苛性ソーダ・炭酸ナトリウム等原料、食品製造用、家庭調理用、
化粧品原料、医薬品原料 など

Na — Cl

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分外
自然発火性固体 : 区分外
自己発熱性化学品 : 区分外
水反応可燃性化学品 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分5 【国連GHS分類】
皮膚腐食性・刺激性 : 区分3 【国連GHS分類】
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2B

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 : 区分外
水生環境慢性有害性 : 区分外

絵表示又はシンボル : 該当なし

注意喚起語 : 警告

危険有害性情報

飲み込むと有害のおそれ(経口)
軽度の皮膚刺激
眼刺激

注意書き

【安全対策】

取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急措置】

眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

湿気を避け、容器を密閉して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	:	単一製品
化学名	:	塩化ナトリウム (別名) ナトリウムクロリド、食塩 (英名) Sodium chloride (EC名称) Sodium chloride (NaCl) (TSCA名称)
成分及び含有量	:	塩化ナトリウム、 99.5%以上(乾燥後)
化学式及び構造式	:	NaCl、 ClNa、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	58.44
官報公示整理番号	化審法	(1)-236
	安衛法	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	7647-14-5
EC No.	:	231-598-3
危険有害性成分	:	塩化ナトリウム

4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	:	皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、つがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	:	この製品自体は燃焼しない。 周辺火災に応じた消火剤を使用すること。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤	:	特になし
特有の危険有害性	:	火災によって有害なガス、蒸気、ヒュームを発生するおそれがある。
特有の消火方法	:	火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。 環境に影響を出不さないよう、できるだけ流出を防止する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 危険な現場を分離して無関係者及び保護具未着用者の出入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	:	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
回収、中和	:	漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。 回収した漏洩物は、後で適正に処分廃棄する。 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法	機材:	
二次災害の防止策	:	危険でなければ漏れを止める。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	:	
技術的対策	:	本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 粉じん、ミストなどの発生を防止する。 粉じんの堆積を防止する。
局所排気・全体換気	:	必要に応じて、換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	:	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 接触、吸入又は飲み込まない。 粉じんが発生する場合は、排気用の換気を行う。 目に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には気を付ける。

- この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管 : 採光、照明及び換気の設備を設ける。
- 技術的対策 : データなし
- 混触危険物質 : 吸湿性があるので、防湿に留意し乾燥した場所に保管する。
- 保管条件 : 容器を密閉して保管する。
- 容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

<参考> 容器包装材料の耐薬品性(あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要)

【 :良好 :やや良好(条件による) :やや不良 x:不良 -:データなし 】

- ・試験温度:室温(RT)
- | | | | | | |
|--------|-----------------|------------------|----------|--------|---------|
| 軟質塩ビ | 硬質塩ビ | ポリスチレン | ABS | ポリエチレン | ポリプロピレン |
| ナイロン | アセタール樹脂 | アクリル樹脂 | ポリカーボネート | ガラス | |
| スチレンゴム | クロロプレンゴム(ネオプレン) | ニトリルゴム | ブチルゴム | | |
| 天然ゴム | シリコーンゴム | フッ素ゴム(バイトン、ダイエル) | テフロン | | |
| 軟鋼 | ステンレス(SUS304) | SUS316 | チタン | アルミニウム | x 銅 |
- ・試験温度:100
- | | | | | | |
|--------|-----------------|------------------|-------|--------|-----|
| スチレンゴム | クロロプレンゴム(ネオプレン) | ニトリルゴム | ブチルゴム | | |
| 天然ゴム | シリコーンゴム | フッ素ゴム(バイトン、ダイエル) | テフロン | | |
| 軟鋼 | ステンレス(SUS304) | SUS316 | チタン | アルミニウム | x 銅 |

8.ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):
 日本産衛学会(2017年版) 設定されていない。
 ACGIH(2017年版) 設定されていない。
- 設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
 粉じんが発生するときは換気装置を設置する。
- 保護具
- 呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具(防塵マスク)を着用する。
- 手の保護具 : 保護手袋(ニトリル製、塩化ビニル製など)を着用する。
- 眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。
 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。

9.物理的及び化学的性質

- 物理的状態、形状、色など : 白色の結晶~結晶性粉末
- 臭い : 無臭
- pH : 中性(水溶液)
- 融点 : 801
- 沸点 : 1461
- 引火点 : 不燃性
- 爆発範囲 : データなし
- 蒸気圧 : 133.3 Pa(865)
- 比重 : 2.164(20/4)
- 溶解度 : 水に溶けやすい(36g/100mL、20)。
 グリセリンに溶ける(10g/100mL、20)。
 塩酸、エタノールに溶け難い。
- オクタノール/水分係数 : データなし
- 自然発火温度 : データなし
- 分解温度 : データなし
- 粘度 : データなし
- GHS分類
- 可燃性固体 : 本品は不燃性であることから、区分外とした。
- 自然発火性固体 : 本品は不燃性であることから、区分外とした。
- 自己発熱性化学品 : 本品は不燃性であることから、区分外とした。
- 水反応可燃性化学品 : 金属(Na)を含むが、水溶解度が36g/100mL(20)であり、水に対して安定であると考えられるので、区分外とした。

10.安定性及び反応性

- 安定性 : 通常の取扱条件において安定である。
 吸湿し固結することがある。

危険有害反応可能性 : 強酸化剤と反応することがある。
避けるべき条件 : 湿気
混触危険物質 : 強酸化剤
危険有害な分解生成物 : 火災で強熱分解すると、有害な塩化水素のガス、蒸気を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 3000mg/kg (RTECS)
マウス LD50 = 4000mg/kg (RTECS)
に基づき、区分5とした(国連GHS分類)。
ただし、分類JISでは区分外である。
飲み込むと有害のおそれ(経口)(区分5)
経皮 ウサギ LD50 10g/kg に基づき、区分外とした。
静脈 マウス LD50 10g/kg (RTECS)
吸入(蒸気) データ不足により分類できない。
吸入(粉塵) データ不足により分類できない。
ただし、粉じんを吸入すると、のど、気管、鼻の粘膜が刺激されることがある。

皮膚腐食性・刺激性 : ウサギ 50mg/24時間 軽度
4時間適用試験結果ではないが、本品は軽度の皮膚刺激性を有すると考えられるので、区分3とした(国連GHS分類)。
ただし、分類JISでは区分外である。
軽度の皮膚刺激(区分3)

眼に対する重篤な損傷・刺激性 : ウサギ 10mg/24時間 中程度
本品は軽度な眼刺激性を有すると考えられるため、区分2Bとした。
眼刺激(区分2B)

呼吸器感受性又は皮膚感受性 : データがないため分類できない。

生殖細胞変異原性 : データがないため分類できない。
発がん性 : 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。

生殖毒性 : データがないため分類できない。

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) : 情報がないため分類できない。

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) : 情報がないため分類できない。

吸引性呼吸器有害性 : データがないため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 : 魚類(ブルーギル) LC50 = 9675mg/L/96H
本品は生態系に広く分布する成分でもあり、区分外とした。

水生環境慢性有害性 : 急性毒性が区分外であり、生体蓄積性は低いと推定されるので区分外とした。

オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出することは避ける。
(参考)希釈法
廃棄量が少量の場合は、大量の水に溶かし排水処分とする。

汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内規制(適用法令)
陸上規制 : 特段の規制なし(非危険物)
海上規制 : 特段の規制なし(非危険物)
航空規制 : 特段の規制なし(非危険物)
国連番号 : 非該当
国連分類 : 非該当
品名 : 非該当
海洋汚染物質 : 非該当
特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当
 毒物及び劇物取締法 : 非該当
 消防法 : 非該当
 化学物質管理促進法 (PRTR法) : 非該当
 船舶安全法 : 非該当
 航空法 : 非該当
 輸出入貿易管理令 : 別表第 1 の 16 項 (キャッチオール規制) 第25類 塩
 HSコード (輸出統計品目番号、2018年4月1日版) : 2501.00-010
 「純塩化ナトリウム (目開きが2.8ミリメートルのふるい
 (織金網製のものに限る。)) に対する通過率が全重量の
 70%以上のもの」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2012に準じ作成しています。